



京都の聖徳太子

聖徳太子が世を去ってから1400年。その御遠忌イベントとして今年までの3年間は各地で記念行事が行われていました。京都にも聖徳太子に関わる場所は多く、いくつかご紹介しましょう。

京都の中心「へそ石」がある

六角堂「頂法寺」

聖徳太子が四天王寺建立のための材木を求め、京都盆地を訪れた際、念持仏が動かなくなってこの地にお堂を建てたという伝説があります。

「へそ石」はここが京都の中心だといわれています。



へそ石

東山のシンボル

八坂の塔「法観寺」

夢で観音菩薩のお告げを聞いた聖徳太子が五重塔を建て、法観寺と名付けられました。

塔の高さは東寺、興福寺に次ぐ3番目で、何度か再建されますが応仁の乱では焼失を免れ、今に残ります。



牡丹の花で有名

洛西「乙訓寺」

広隆寺と同時期に、推古天皇の勅願で聖徳太子が開いたといわれています。平安時代には空海と最澄がここで出会って交流を深め、密教について語ったという記録が残っています。



ご本尊が聖徳太子

太秦「広隆寺」

飛鳥時代に起源をもつ京都で最も古いお寺で、秦河勝が聖徳太子のために建立したと伝えられます。本堂の太子殿には聖徳太子立像が本尊として安置されています。



上宮王院太子殿(本堂)

太子道

広隆寺への参詣道を「太子道」といい、現在も京都市の中心あたりから広隆寺の近くまで続きます。

バス停も →



祇園祭の山鉾にも

祇園祭「太子山」

御神体が聖徳太子なので太子山と名付けられました。四天王寺を建立するため、自ら山に入って杉の良材を切り出した伝説に由来します。





6ヶ月 この1冊で確実に作れる 社員300名までの 人事評価・賃金制度入門 〈改訂版〉

中小企業向け「評価・賃金制度入門書」の決定版が登場！
(資料ダウンロードサービス付き)

本書は主要な業種別、職種別の等級・評価・給与賞与の仕組みに加え、退職金、報奨金、残業管理、パート・アルバイト、契約社員、地域限定社員、定年再雇用社員の各制度に至るまで、中小企業向け人事制度の解説事例が全てオールインワンになった「今までにない入門書」です。最新の改訂版では、「定年延長」「ジョブ型人事制度」の解説が追加されました。

中堅・中小企業向け人事制度で1,000社以上の実績のある人事コンサルティング会社が長く使っているスタンダードな人事評価・賃金制度づくりのエッセンスを解説した最新版

(注)本書は、2016年2月に中央経済社より発刊された『社員300名までの人事評価・賃金制度入門』をベースとし、内容に一部加筆・修正を加えたものとなっています。

著者
森中 謙介 山口 俊一



■ 出版社：中央経済社

■ 定 価：2,860円

目次

I. 低成長時代の人事制度の考え方

- ・相次ぐ企業の高い賃上げ状況
- ・売上や付加価値に見合った人件費を実現する
- ・賃金カーブの平準化で、70歳雇用時代に対応する

II. 1ヶ月目「人事制度の現状分析と方針策定」

- ・総額人件費・賃金水準の把握方法
- ・人事制度方針書作成のポイント
- ・業種別の人事評価・賃金制度構築のポイント

III. 2ヶ月目「職種別・階層別の等級制度と評価制度をつくる」

- ・等級フレームの作成方法
- ・専門職導入で、技術系社員の能力発揮を促す
- ・職種別・階層別等級基準のつくり方

IV. 3ヶ月目「全天候型・給与制度をつくる」

- ・給与制度のトレンド
- ・年功的給与制度や生活関連手当を見直す
- ・固定給から変動給の割合を拡大する

V. 4ヶ月目「業績連動型・賞与制度をつくる」

- ・業績連動賞与の基本と設計の観点

VI. 5ヶ月目「退職金と周辺制度をつくる」

- ・退職金制度の基本と見直し事例
- ・定年延長あるいは再雇用制度の見直しでシニア社員のモチベーションを向上させた事例
- ・地域限定正社員制度で人件費問題と社内不公平感を解決した事例

VII. 6ヶ月目「社員説明会を行い、新制度をスムーズに導入する」

- ・分かりやすい社員説明用資料を作成する
- ・社員説明会とアンケート、Q&A等に時間を割き、社員の理解を高める
- ・労働組合への対応方法

VIII. ジョブ型人事制度設計のポイント

- ・ジョブ型の基本的な考え方
- ・中小企業に適したジョブ型人事制度設計のポイント

IX. 人事制度改革成功のポイント

興味をお持ちの方はamazon等でお買い上げください。

＜あとがき＞

聖徳太子には超人的なエピソードがたくさんある一方で、実はあの有名な肖像画は別人だとも言われています。ともあれ、古代の日本で大活躍した人物が存在したということは間違いないでしょう。日本最初のヒーローといえるかもしれません。(木下)